

27年4月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 4月1日～ 27年4月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/4月	27/5月	27/6月
仕入 動向	国産材製材品	0.0	25.0	18.8
	外材製材品	△ 6.3	△ 6.3	12.5
	構造用集成材	7.1	14.3	21.4
消費 動向	国産材製材品	△ 18.8	6.3	6.3
	外材製材品	0.0	12.5	6.3
	構造用集成材	0.0	21.4	21.4
在庫 動向	国産材製材品	0.0	6.3	6.3
	外材製材品	6.3	△ 6.3	△ 6.3
	構造用集成材	21.4	14.3	0.0

- ・プレカット加工用部材の仕入は国産材は4月の横ばいが5月及び6月は増加、外材は4月及び5月の減少が6月は増加、構造用集成材は3ヵ月連続して増加。
- ・プレカット加工用部材の消費は国産材は4月の減少があるものの総じて4月の横ばいが5月及び6月は増加。
- ・プレカット加工用部材の在庫は、国産材は4月の横ばいが5月及び6月は増加、外材は4月の増加が5月及び6月は減少、構造用集成材は4月及び5月の増加が6月は横ばい。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	27/4月	27/5月	27/6月
受注	25.0	25.0	18.8
加工	18.8	25.0	25.0
受注残	12.5	18.8	6.3

- ・プレカット工場の受注、加工及び受注残は3ヵ月連続して増加。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・春需対対応でやや増加。
- ・各品目とも不足感はない、価格も弱含み、但し米材はサボタージュの影響で#2材が入手難。消費は3月から見ると4月以降は20～30%の消費増で活発になってきた。全体に冬材とも在庫量は少しづつ増えるが、市況を反映して微増程度。
- ・材料持込半分、県産材補助の関係で、国産材の受注が増える予定。在庫はスギ平角の原木有。
- ・どの材料も仕入れは楽だ。今一つ需要が望めない。

(受注動向)

- ・雪解けに合わせるように受注増、加工量増加。
- ・4月連休前後の出荷分の受注が好調、5月は一段落か。
- ・受注が大きく回復する気配なし。